

令和7年度 学校法人鈴木学園 自己点検評価

実施・作成日	2026/2/6
学校名	中央動物総合専門学校
学科名	動物総合学科

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 自己評価 結果(学外)	
【項目1】 教育理念・目的・目標	1教育理念、目的及び 目標の設定等	① 教育理念等に基づく目的・ 目標・人材像	a)教育理念を踏まえた学校の目的および目標が文書として明確に定められていること b)養成する人材像が学科・コースごとに整理され、関係資料に明示されていること c)上記が教育活動の基本方針として活用されていることを資料等で確認できること	2
		② 鈴木学園クレド(法人独 自)	a)クレドの周知・理解促進に関する取組が定められていること	2
			b)当該取組が継続的に実施されていること	
			c)教育活動や学生対応等の日常業務における実践状況を確認できること	

【評価結果の分析】

.....

法人独自の「クレド」の実践に関しては非常にスムーズですが、一方で「学科単位の具体的な人材像の言語化」において一歩遅れが見られます。教育理念をより具体(各学科)に落とし込む作業が今後の重点課題である。

【今後の改善方策】

・コース会議において、教育理念が個々の授業にどう反映されているかを共有する時間を設け、理念の「具体(学科レベル)への落とし込み」を完了させる。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 自己評価 結果(学外)	
【項目2】 教育課程・教育の実 施・学修成果	1教育課程の編成と授 業科目	① 教育課程編成(体系性・系 統性・段階性)	a)教育課程編成・実施方針が定められていること b)方針に基づき教育課程が体系的に編成され、系統性・段階性に配慮した授業科目が配置されていること c)方針および編成内容を関係資料で確認できること	3
		② 留学生対応科目(300時間) 【注:外国人留学生キャリア形 成促進プログラム】	a)日本社会の理解促進に資する授業科目が設定されていること	該当なし
			b)当該授業科目が300時間以上実施されていること	
	c)時間数・実施状況を資料で確認できること			
	2教育の実施	① 授業形態・教材・成績評価	a)授業科目内容に応じた授業形態および教材の方針(または内容)が定められていること b)授業が計画に基づき実施されていること c)成績評価基準に基づき成績評価が行われていることを確認できること	3
		② 企業等と連携した実習・演 習等【注:職業実践専門課程】	a)企業等と連携した実習・演習等の位置付けが明確にされていること	3
			b)単位時間または単位数の総授業時数に占める割合(または時間数)が具体的に設定されていること	
	c)実施状況および設定内容を資料で確認できること			
	3単位・卒業認定	① 卒業認定方針・認定運用	a)卒業認定方針(資格・免許等、修得させる職業能力を含む)が学科・コースごとに定められていること	3
			b)当該方針に基づき単位認定および卒業認定が行われていること	
			c)認定の基準および運用状況を資料で確認できること	
	4学修成果目標の達成 状況	① 資質能力(資格・知識・技 術・技能)の目標達成	a)卒業認定方針を踏まえ、資質能力の修得(資格・免許取得、知識・技術・技能の修得等)の目標が各学科・コースごと定められていること	3
b)目標に対する実績が把握されていること				
c)達成状況を資料で確認できること				
② 進路実現の目標達成		a)学生が望む進路の実現に関する目標が定められていること	3	
		b)目標に対する実績が把握されていること		
		c)達成状況を資料で確認できること		

【評価結果の分析】

・小項目1については、  
.....

教育課程の体系的な編成については、方針策定から具体的な科目配置、資料管理に至るまで一貫して適切な運用がなされています。留学生対応については現時点で対象外ですが、主軸となる教育課程の編成能力は十分に備わっていると評価できる。

・小項目2については、シラバスに記載された形態(講義・実習)で授業が実施され、成績評価基準に基づき厳正に評価が行われていることが成績表により確認できる。

・小項目3については、  
.....

教育の出口(卒業認定方針)から逆算された体系的なカリキュラム(教育課程編成)が構築されており、組織的かつ計画的な教育活動が展開されていると評価できる。全てのチェック項目において高い適合性(O)を示しており、学修成果の質を保证する基盤は十分に確立されている。

・小項目4については、  
.....

「教育方針の策定」から「具体的な授業配置」、「厳格な卒業判定」、そして「成果(資格・進路)の把握」に至るまでの一連のサイクルが極めて良好に機能していると評価できる。全ての実施項目において「O(適切)」の評価を得ており、学内の諸規程やシラバス、実績資料に基づいた客観的な教育運営が実践されている。

【今後の改善方策】

・現在、計画・実施・成果把握のサイクルは極めて良好に機能していますが、現状に満足せず、学生アンケートや外部意見(教育課程編成委員会)をより細やかに授業計画(シラバス)へ反映させる仕組みを定例化します。これにより、業界の最新トレンドに合わせた「常に鮮度の高い教育内容」へのアップデートを組織的に継続します。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 自己評価 結果(学外)		
【項目3】 学生の受入れ 学生支援	1学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	① 受入方針・選考基準・方法の明示と公正な選抜	a)入学者の受入方針、入学選考基準、選考方法が定められていること b)入学希望者に対して、上記が明示されていること c)・定めた基準・方法に基づき、選考を公正に行い、合否を決定していること	3	
		② 定員に基づく受入・適正管理【注：修学支援新制度/留学生キャリア形成促進】	a)入学定員に基づく受入・管理の方針(または運用)が定められていること b)定員管理が適正に実施されていること c)管理状況を資料で確認できること	2	
			③ オープンキャンパス(法人独自)	a)募集方針に基づき時期・回数・内容を計画的に設定していること b)計画に基づき実施されていること c)実施結果の検証および改善の状況を確認できること	3
	2自主的な学習の促進に対する支援			①自主的な学習の促進支援	a)学力・学習状況を把握する取組が行われていること b)入学前教育、補習等が実施されていること c)支援内容及び実施状況を資料で確認できること
		3多様な学生に対する支援		①多様な学生に対する支援	a)多様な学生に対応する支援体制が整備されていること b)支援が実施されていること c)支援状況を確認できる資料が整備されていること
			② 留学生の在籍管理・進路指導・交流機会【注：留学生キャリア形成促進】	a)留学生の適正な在籍管理および進路(就職)指導が行われていること b)日本人学生との交流の機会が確保されていること c)実施状況を資料で確認できること	該当なし
	① 相談体制(カウンセラー等)			a)学生の相談に対応する環境(体制)が整備されていること b)適切に運営されていること c)運用状況を資料で確認できること	2
		② 留年者・退学希望者等への対応		a)学習継続に困難を抱える学生への対応方針(または運用)があること b)適切な対応が実施されていること c)対応状況を資料で確認できること	2
			③ 中途退学者分析(法人独自)	a)中途退学者の理由および実状を把握・分析していること b)分析結果が教職員間で共有されていること c)分析・共有・改善活用の状況を資料で確認できること	2
	4学生生活に関する支援			④ 学校保健計画(学校保健安全法)	a)学校保健計画が策定されていること b)学生の心身の健康管理体制が整備され、適切に運用されていること c)運用状況を資料で確認できること
		⑤ 経済的支援(周知・運用)		a)学生の経済的側面に対する支援体制が整備されていること b)適切に周知され、運用されていること c)周知・運用状況を資料で確認できること	2
			⑥ キャリア支援・就職支援(周知・運用)	a)キャリア支援、就職支援の体制が整備されていること b)適切に周知され、運用されていること c)周知・運用状況を資料で確認できること	3
	⑦ 資格試験合格率の把握・分析(法人独自)			a)合格率について目標値、過年度実績、外部データ等との比較により水準を把握していること b)分析および改善に取り組んでいること c)把握・分析・改善の状況を資料で確認できること	3
		⑧ 不合格者支援と効果検証(法人独自)		a)不合格者に対し原因分析を行っていること b)補講や個別指導等の対策が実施されていること c)対策の効果検証を資料で確認できること	2

【評価結果の分析】

・小項目1については、入学者の受入方針、選考基準および選抜方法については明確に定められており、受験者に対しても適切に公開され、公正かつ妥当な運用が行われている点は高く評価できる。入試関連資料も整備されており、透明性の高い入学選抜体制が確立されている。  
また、定員管理や在籍学生の把握についても、基本的な管理体制は整っており、受入方針に基づいた運用が概ね適切に行われている。一方で、定員管理の運用状況については、実態把握や分析の深化という点でやや弱さが見られ、改善の余地がある。  
オープンキャンパスについては、募集方針に基づき計画的に実施され、実施結果の検証および改善も行われている点は評価できる。今後は、オープンキャンパス参加者の動向分析や入学実績との関連性をより詳細に把握し、募集戦略の精度向上につなげることが求められる。これにより、受入の質と量の両面で、より効果的な学生募集体制の構築が期待される。

・小項目2については、入学前教育の実施計画およびシラバスの実施記録により、学習状況に応じた学習支援が行われていることが確認できる。  
・小項目3については、月に1度スクールカウンセラーの先生をお招きし、担任による個別面談も定期的に行われ、記録を残している。

・小項目4については、学生便覧に相談窓口があることを明確にし、月1回のカウンセラー相談室開設が円滑に運営されていることが証明されている。面談記録を精査すると、出席率が芳しくない学生への早期のアプローチは実施されているが、その迅速性には学科ごとに多少のばらつきが認められる。学校保健安全法に準拠し、年1回の定期健康診断の実施や学内の健康管理体制が適切に構築されている。奨学金説明会の実施状況や就職支援の配布資料から、学生への支援制度の周知と適正な運用が行われていることが裏付けられる。各資格の合格率を全国平均と照らして分析し、不合格者への再挑戦に向けた特別補講の実施計画が体系的に整備されている

【今後の改善方針】

・「欠席日数〇日、または出席率〇%以下で即日アプローチ」といった明確な初動基準を学科内で統一し、対応フローを可視化します。これをコース会議で毎月進捗確認することで、担任の経験や判断に左右されない平準化された支援体制を構築し、中途退学の未然防止を徹底します。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検 自己評価 結果(学外)
【項目4】 教育実施組織・教員	1教員の配置、募集、採用	① 採用基準・確保・運用	a)必要な資格・要件を備えた教員を確保するための基準（採用基準等）が整備されていること	3
			b)基準に基づき適正に運用されていること	
			c)運用状況を資料で確認できること	
	② 教員構成・授業時数・専門性／教授力の把握・評価	a)常勤・非常勤、年齢構成、教員一人当たり授業時数等を把握していること	3	
		b)教員の専門性および教授力を把握・評価していること		
		c)把握・評価の状況を資料で確認できること		
	2教員の組織編制等	① 組織整備・業務分担・責任体制	a)分野の区分ごとに必要な教員組織が整備されていること	3
			b)業務分担および責任体制が規程等で定められていること	
			c)運用状況を資料で確認できること	
	② 教員間の連携・協力体制	a)教員間の連携・協力体制が構築されていること	2	
		b)当該体制が継続的に機能していること		
		c)取組状況を資料で確認できること		
3教員の資質の向上	① FD等・研究／自己啓発支援	a)教育改善に向けたFD等の取組が行われていること	2	
		b)研究活動、自己啓発等への支援が行われていること		
		c)取組状況を資料で確認できること		
	② 企業等と連携した教員研修（組織的）【注：職業実践専門課程】	a)企業等と連携した教員研修が組織的に行われていること	1	
		b)継続的に実施されていること		
		c)実施状況を資料で確認できること		
	③ 授業・指導力向上研修（企業等連携・組織的）【注：職業実践専門課程】	a)授業および指導力等の向上を目的とした研修が企業等と連携して組織的に行われていること	3	
		b)継続的に実施されていること		
		c)実施状況を資料で確認できること		

【評価結果の分析】

・小項目1については、  
・・・・・・・・

教育課程の質保証および学生の学修成果（資格・進路）の達成については、安定した高い運用水準を維持しています。一方で、組織基盤である教員の採用基準の整備・運用において改善の余地があり、教育の質を継続的に担保するためにも、人事採用プロセスの形式知化（マニュアル化や基準の明確化）を優先的に進める必要があります。

・小項目2については、教育実施組織については、専門分野ごとの教員配置や業務分担・責任体制は規程等により概ね整備されており、組織図や名簿等の資料により運用状況も確認できる点は評価できる。一方で、教員間の連携・協力体制については、仕組みとしては構築されているものの、継続的・実質的な機能発揮という点では十分とは言えず、組織的な取組が形骸化している可能性が示唆される。今後は、定期的な会議体の活性化や情報共有の仕組みの明確化などにより、教員間の連携を「仕組み」から「実効性のある運用」へと高めることが求められる。

・小項目3については、FD等の取組や研究活動、自己啓発支援については一定程度実施されており、教員研修に関する資料や取組状況は確認できることから、教員の資質向上に向けた基盤は整備されていると評価できる。一方で、企業等と連携した教員研修や授業・指導力向上を目的とした組織的な研修については、継続的・計画的な実施に至っておらず、実施状況を示す資料も不足している。

今後は、企業連携型研修や実践的な指導力向上研修を計画的に位置づけ、単発に終わらない継続的な取組として制度化することが求められる。

【今後の改善方針】

- ・（認：重要）令和8年度中に、企業等と連携した実務研修および指導力向上研修の年間計画を策定し、全教員が組織的に受講を開始することで、職業実践専門課程の要件を確実に充足させる。
- ・就職支援の年間スケジュール（企業説明会・個別面談・履歴書指導等）を学年暦と連動させて学生に提示するとともに、コース会議において各クラスの就職活動状況を毎月共有し、支援が必要な学生への声掛けを組織的に行う体制を構築する。

大項目	小項目	評価の基準		自己点検 自己評価 結果(学外)
【項目5】 教育環境	1教育環境の整備	① 施設・設備等の整備	a)教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること	3
			b)教育活動に活用できる状態で維持されていること	
			c)整備状況を資料で確認できること	
		② 学習支援施設・休憩／食事スペース	a)自習室等の学習支援施設が整備されていること	2
			b)学生の休憩・食事のためのスペースが確保されていること	
			c)整備状況を資料で確認できること	
	③ 図書室・専門書／参考図書	a)図書室が設置され、必要な専門書・参考図書が配架されていること	2	
		b)学生が必要に応じて閲覧できる運用がなされていること		
		c)整備・運用状況を資料で確認できること		
	2安全対策、防災組織	① 学校安全計画（学校保健安全法）	a)学校安全計画が策定されていること	3
			b)学校における安全対策が適切に実施されていること	
			c)実施状況を資料で確認できること	
② 防災体制（組織整備・運営）		a)火災等に備えた防災に関する組織体制が整備されていること	3	
		b)適切に運営されていること		
		c)運営状況を資料で確認できること		
3施設・設備等の点検、改善等	① 点検・補修の実施	a)日常点検、定期点検、補修等が適切に行われていること	3	
		b)点検・補修の記録が整備されていること		
		c)実施状況を資料で確認できること		
	② 改築・改修／更新計画と実施	a)改築・改修、設備更新等の計画が定められていること	2	
		b)計画に基づき適切に実施されていること		
		c)計画・実施状況を資料で確認できること		

【評価結果の分析】

教育活動に必要な施設・設備および機械器具については、概ね整備されており、教育に支障なく活用できる状態で維持管理されている点は評価できる。また、整備状況についても資料により確認可能であり、教育環境の基盤は安定しているといえる。

一方で、自習室や休憩・食事スペース、図書室・専門書の整備については、一定の環境は確保されているものの、学生の学習支援という観点では十分とは言えず、さらなる充実が課題である。特に、学生が主体的に活用できる学習スペースの確保や、専門性に応じた図書・参考書の計画的整備、利用促進の工夫が求められる。

今後は学生の学習行動を支援する環境整備を重視し、利用状況の把握と改善を継続的に行うことで、教育効果の向上につながる教育環境の質的充実を図っていく必要がある。

学校安全計画の策定および安全対策の実施については、計画・運用ともに整備されており、防災計画や消防点検、訓練等の資料からも実施状況が確認できる点は高く評価できる。日常的な安全管理体制は一定の水準を維持しているといえる。一方で、防災体制の運営については、組織としては整備されているものの、活動の継続性や運営実態の可視化という点でやや弱さが見られる。特に、役割分担や対応フローの共有、訓練結果の振り返り等が十分に組織的改善につながっていない可能性がある。

施設・設備の点検および補修については、日常点検や定期点検が実施され、記録も整備されていることから、現状維持の管理体制は一定水準で機能していると評価できる。点検結果を資料で確認できる点も、教育環境の安全性確保という観点で評価できる。

一方で、改築・改修や設備更新については、計画性が十分とは言えず、長期的視点に立った更新計画や実施状況の整理が課題である。突発的対応に依存している可能性があり、計画的な施設整備体制が十分に構築されていない。

【今後の改善方針】

現在の「壊れてから直す」体制から脱却し、2号基金の活用も視野に計画を策定する。これにより、中長期的な視点で計画的な予算確保と教育環境の質的向上を図る。

大項目	小項目	評価の基準	自己点検 自己評価 結果(学外)	
【項目6】 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1中期事業計画と財務基盤	① 中長期計画への位置付け	a)中長期的計画に教育目的・教育目標の実現に向けた具体的内容が位置付けられていること	2
			b)当該内容の進捗を把握できること	
			c)計画・位置付け・進捗を資料で確認できること	
	② 財務基盤	a)教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤が確立されていること	2	
		b)財務状況を把握していること		
		c)状況を資料で確認できること		
	2学校運営	① 学校運営体制（責任体制を含む）	a)学校運営の組織体制が整備されていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）	3
			b)適切な運営が行われていること	
			c)運営状況を資料で確認できること	
	② BSCによる目標管理（法人独自）	a)BSCを活用した目標管理の運用が行われていること	3	
		b)教育活動および学校運営の改善に活用していること		
		c)運用・活用状況を資料で確認できること		
	3学校評価の実施と改善活動	① 外部意見の活用（学校関係者評価委員会等）	a)学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等により外部意見を把握し、学校運営や改善・向上に活用していること	3
			b)意見および反映状況が整理されていること	
			c)活用状況を資料で確認できること	
		② 教育課程編成委員会（年2回以上）【注：職業実践専門課程】	a)教育課程編成委員会を年2回以上開催していること	3
			b)議事録等が整備されていること	
			c)開催状況を資料で確認できること	
③ 評価結果・改善状況の公表	a)学校評価を実施していること	3		
	b)結果および改善状況の情報を公表していること			
	c)実施・公表状況を資料で確認できること			
④ 改善の組織的・継続的实施	a)学校評価の結果に基づく改善への取組が行われていること	3		
	b)組織的かつ継続的に実施されていること			
	c)取組状況を資料で確認できること			
4社会からの理解と情報の公表	① 情報の積極的公表	a)教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること	3	
		b)公表内容が整理されていること		
		c)公表状況を資料で確認できること		
	② 社会的理解の促進	a)教育目的・目標の達成状況や活動状況について、関係機関や産業界等を含む社会全体からの理解を得る取組を行っていること	3	
		b)取組状況が整理されていること		
		c)取組状況を資料で確認できること		

#### 【評価結果の分析】

中期計画は具体的な内容が定まっており、定例の会議で進捗を把握している。進捗の共有は教職員研修会やセクション長会議などで行われているが、教職員への浸透は計画された行動によって行われている。

財務の把握はLeySerシステムの予算管理によって行われており、決算財務分析会議で全体的な把握が行われているが、セクション長を含めた教職員の財務意識の向上が今後必須。

学校運営における組織体制や責任体制については、規程や会議体の整備により一定の枠組みは構築されているものの、運営の実態や意思決定プロセスの可視化、役割分担の明確さという点では十分とは言えず、組織としての運営力に課題が見られる。

一方、BSCを活用した目標管理については導入・運用は行われており、教育活動や学校運営の改善に一定程度活用されている点は評価できる。しかし、BSCの結果が組織全体の改善施策へ十分に反映されているとは言い難く、運用状況の記録や活用事例の蓄積も不十分である。

学校関係者評価委員会の議事録から、産業界や在校生、保護者といった多様な委員の提言が教育活動の質向上に活かされていることが見て取れる。自己点検・評価報告書を学校公式サイト上で公開し、組織の運営状況を広く社会へ開示していることが確認できる。

教育活動や学校運営に関する情報公開については、必要な情報が積極的に発信され、内容も整理されている点は評価できる。一方で、公開状況を体系的に整理・記録し、第三者が継続的に確認できる形での資料整備という点では改善の余地がある。

また、教育目標の達成状況や取組について、関係機関や産業界を含む社会全体からの理解を得るための活動は一定程度行われており、取組内容の整理や資料化も進んでいる点は評価できる。しかし、その成果や効果を検証し、戦略的に発信していく仕組みは十分に確立されていない。

#### 【今後の改善方針】

・各担当が予算の進捗を毎月確認し、現場の教員が主体となって無駄を減らし、必要なところに投資する仕組みを作る。

・学校全体の学校関係者評価委員会での指摘や自己点検結果を、教員一人ひとりの「個人の目標（BSC）」に必ず組み込みむようにしていく。